



第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会
ランチョンセミナー13(LS13)

感染症検査の 効率化と最適化に 向けて

日時

2024年

2月11日(日) 12:20~13:20

場所

パシフィコ横浜ノース 第6会場(4F G402)

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-2

座長

長尾 美紀 先生

京都大学大学院医学研究科
臨床病態検査学 教授

演者

中村 竜也 先生

京都橘大学
健康科学部 臨床検査学科 准教授

配布場所：パシフィコ横浜ノース 1階<参加受付付近>

- 1) 参加を希望されるセミナーの整理券をお取りいただき、セミナー入場時にお弁当とお引換えください。
- 2) 整理券配布はお一人様1枚限り、先着順のうえ、無くなり次第、終了となります。
- 3) 入場は整理券をお持ちの方を優先させていただきます。
- 4) セミナー開始5分経過後、整理券は無効となります。

展示のご案内

本学会付設展示会にて弊社製品を展示しております。
ぜひ弊社ブースにお立ち寄り下さい。

◆展示機器・製品

- ・全自動迅速同定・感受性測定装置 ライサスS4
- ・β-Dグルカン測定試薬・機器 ESアナライザー

共催：第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会 / 島津ダイアグノスティクス株式会社

感染症検査の 効率化と最適化に向けて

京都橋大学 健康科学部 臨床検査学科

中村 竜也 先生

近年、微生物検査における技術革新が急速に進んでいるが、それらを如何に診断・治療に活かすかが今後の感染症検査のポイントになると考える。コロナ禍を契機に質量分析や遺伝子検査などの最先端な機器や試薬を導入した施設も多いと思われる。その結果として、手間や時間をかけてきた同定検査や薬剤耐性菌検査の効率化が大きく進んだ。現代における微生物検査室の効率化は、迅速かつ正確な感染症診断を可能とし、抗菌薬適正使用に貢献している。ただし、必要・不必要を考慮した効率化であれば問題はないが、自動機器導入だけに頼った効率化は技術の低下を及ぼす危険性がある。効率化とともに技術の継承も同時に行われなければいけない。

一方、必要性を考えた効率化も考えるべきである。例えば、真菌や嫌気性菌の薬剤感受性検査は実施していないもしくは限定的に実施している施設が多く、経験的や文献的に有効と考えられる薬剤を選択しているケースが存在する。これらの菌種に関しても一般細菌と同様に薬剤耐性の問題がクローズアップされている。2020年CDCの報告では、コロナ禍で Antifungal resistant *Candida auris* の検出が60%以上増加し、特に救急領域で問題となったとしている。真菌や嫌気性菌の薬剤感受性検査を測定可能にした機器としてライサス[®]S4(島津ダイアグノスティクス)がある。本機種は、一般細菌やFastidiousな菌種は基より、酵母様真菌や嫌気性菌の薬剤感受性検査を自動で読み取ることが可能としている。ライサス[®]S4を使用することで必要される検査結果に対する効率化を実現できる。

効率化の先には、それを活かした最適化があると考ええる。最適化には、検査の最適化と治療の最適化がある。検査の最適化は、感染症(材料)毎に検査内容を更に詳細に分け、病原微生物を確実に検出することを目指す。治療の最適化は、患者個々に対する治療いわゆるPrecision Medicineを目指すことにある。様々な機器や試薬を利用した感染症検査の効率化は、最適な治療の提供を可能にすると考える。